

会報

道南

No.19

63.1.25

情報市場の青函博は試金石

会長 山下 静一



昭和六十三年七月、函館では青函トンネル開通記念の青函博覧会が開かれることになっている。是非成功させたいものである。

この世紀の大事業とうたわれている津軽海峡の海底を貫くトンネルの完成は、函館をはじめ北海道にどんな影響が生ずるか、今から予測することは

むずかしいが、恐らく、時間がたつとともに、驚異的な変化をもたらすにちがいない。私は日本の高速道路の幕あけから今日まで三十年間、道路のネットワークの拡がりと、周辺地域社会の変化を眺めてきた経験から、青函トンネルの完成が、函館や北海道にどんなプラスが生まれるか、あるいはマイナスは何かに深い関心を持っているのである。

かつて町村道政時代、青函トンネルが開通したら北海道の人口は減少するという意見を、私は知事の私的懇談会で主張したのである。あの頃は高度成長期であり、製造業を主軸とする新しい産業社会と称された時代であり、大工業地帯の雇用吸収力が大きかっただけに、若

い世代は、簡単に汽車に乗り、海底トンネルをくぐり暖かい関東、関西にゆけるとすれば、当然北海道脱出者がふえるという見通しにたつての人口減少論なのであった。

しかし、石油危機を乗り越え、技術革新の進行と、国際競争力の強まりは、産業構造をどんどん変えてゆき、新たに情報化社会と呼ばれる時代に移行していったのである。このことは、一次、二次、三次産業という産業構造が当てはまらなくなり、知識・情報産業というものが生まれ、雇用においても、それが大きな割合を占めるようになってきた。まことに大きな変化である。

このような情報化社会といわれる時代の到来で都市には、情報や知識の市場を形成してゆくための施設や投資が要求されてきたのである。具体的には大小の会議場、ホテル、博覧会や見本市などが開催できる公園など空間というスペースを必要とするのである。ホテルは旅行者の一夜の宿から、今後は全国から人を集めての情報市場という役割を持つことになった。

私は、前掲町村知事の道政懇談会で、『大沼公園に国際会議場設置』を提案した。それは函館や道南には工場が来ないだろうから、そのかわり国際会議場を誘致せよ、ということであり、大沼公園は函館空港に近く、かつ湖畔に建設することは立地条件として最高であるなど。現在の情報化時代を一応予知しての考えである。

要は沢山の人を集め情報、知識の市場をつくることであり、青函博は目的がそこにおかれているのではないと意味がない。また一回こっきりのものでなく、新しいアイデアで市場価値を高めることも新しいビジネス育成の上から大切であり、青函博は貴重な試金石であるといえる。



新年を迎えて

函館市長 木戸 浦隆 一



明けましておめでとうございます。北海道道南会の皆様には新春をつつがなくお迎えの事と、心からお喜び申し上げます。

昨年一年間、道南会の皆様をはじめ、関係各位から寄せられましたご厚情、ご支援に、深く感謝を申し上げます。さて、昨年を顧りみますと明るい話

題が多い年でした。観光客の入り込みが、史上最高の二百九十九万人を記録した昭和六十一年度を更に上回るペースで伸びていること、国際観光モデル地区の指定、マリノベーション構想の調査地域の指定を受けたことなどです。

そして本年、昭和六十三年は、三月十三日に待望久しい一番電車が青函トンネルを走り抜けることになっております。

当市はこのトンネル開通を契機に、新たなる青函圏の中核都市として発表する年を迎えるわけでございます。

この歴史的な年を記念して、七月九日から九月十八日までの七十二日間、「新たな交流と発展―北の飛躍をめざして」をテーマに、青函トンネル開通記念博覧会を開催いたします。

また、将来の観光客の増加と登山道渋滞対策の一環として利用者の利便をはかるために函館山ロープウェイの大型化と山頂展望台の改築が、四月二十一日開業へ向けて現在進められております。ゴンドラは日本一の百二十五人乗りに、展望台は、悪天時でも夜景を写し出せる

12面マルチスクリーンを設けるなど利用者を楽しんでもらえる施設にリフレッシュする予定です。

このような明るい話題も多い反面、地方自治体を取りまく環境は、まだまだ厳しいものがございます。

従いまして私も、一昨年策定いたしました行財政対策を更に推進し、各種の事業、施策について重点的かつ効率的な運営をはかるため、職員と一丸となって努力いたす所存でございますので、旧年に倍しまして皆様のお知恵とお力をお貸しいただきたいと存ずる次第でございます。

新しい年にあたり、皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、年頭のあいさつといたします。

着せ替人形

岩城 湍

元日や着せ替人形空ろな瞳

冬薔薇や灯台守の顔の疵

枯芦や灯台までの崖の道

雪搔きて屋根のグズ雪うながせり

真白き葱置く土間の夜明け前

風吹きてはがねと化する寒の星

かぐろきまで空深まりて雪祭

干し大根皺をかぞへる頃となり

泥かぶり残雪眠る街の隅

余寒なほ鉄骨宙に吊られるて

道南会から函中会・青柳会

そして大谷幼稚園の集いまで

三 國 比左男

五色のテープを握り締め、連絡船から函館に別れを告げたのが昭和三十三年一月、以来内地勤務が続き、いつしか定年となり、遂に一昨年埼玉に居を構えることになってしまった。

野球の遠征、受験、帰省、出張、転勤等々数多くの想い出の連絡船は、間もなく消えようとしている。感慨一入深い昨今である。

道南会とお付き合いは、東京勤務となつて間もなくの昭和三十四、五年頃だったと思う。故阿部良平さんが勤務先に尋ねてこられ、有無をいわず入会させられて以来である。

「総会に出なくともよい、会費だけ納めろ」という大先輩の仰せに従つたまで。したがって総会に顔を出したのは二度程しかない大変お粗末な会員である。

ところがその総会で久しぶりに逢つた幼馴染みの福津達男君とは、以来家族ぐるみのお付き合ひをして今日にいたっている。道南会のお蔭である。

道南会のお付きあいが、白楊ヶ丘同窓会東京支部結成にも役立ったし、数年前道南会ご常連の板垣寿見子女史のお計らいで、青柳小

学校の集いに出席させてもらい、更に友達の環が広がった。

青柳小・函中という仲間がよく集まるよう



になり、昔話に華が咲いているうちに、意外にも大谷幼稚園卒園者の多いのに驚いた。福津君まで三日間通つたといひ出す始末。いつしか誰れともなく「今度は大谷幼稚園の同窓会をやるべ」との冗談が飛び出すようになった。そして瓢箪から駒、遂に昨年十月大谷幼稚園の同窓会が実現してしまつたという次第である。

仲間がよく集まる銀座「奈里多」のママ成田慶子さん（道南会員）も卒園者、「是非やりなさいよ」とたきつけられたのが初夏の頃、まず名簿でも作ってみようかとあちこち電話作戦を展開する一方、われわれが教わつた先生方がどうしていらっしゃるかを調べてもらった結果、多年大谷幼稚園に在職された大塚先生がご健在であり、毎年のように上京されるといふことも判明した。

七月末恩師の法事で帰函した際に大塚先生を尋ねたところ、大塚・開両先生が秋に上京され、在京の中川・斉藤両先生と旧交をあたためるとのこと、それではその時に合わせて同窓会をやりましょうということになって、卒園者の小泉龍彦君と成田さんとで名簿の確定を急ぐとともに、先生方の日取り確定を催促、当方の都合もあるからと十月二十四日（土）に逆指定という大変失礼なことまでしてしまつた。

会場の方は、これまた卒園者のニュートリーキョー本間彌四郎君に便宜をはかつてもらうこととし、名簿をまとめて案内状を七十余人

に発送した。

ロコミで作った名簿の悲しき、所在不明で戻ってきたのが十通ばかり、私は函館幼稚園ですというのもあったが、反響は大きく、大方が五十年前も前の同窓会の通知にビックリされたようで、返信葉書に異口同音「思いがけず云々」とあったことから窺われた。

当日は生憎の雨だったが、八十三才の中川先生を筆頭に先生方四人、同窓生三十四人が参集、六回生で本間君のお兄さん孝一氏（東洋大学教授）の乾杯で開会。先生方それぞれの想い出話、同窓生一人ひとりの挨拶等々であつという間に時が経っていった。

なんととっても、高齢の先生方のお元気なこと、幼児時代の本人も知らない昔のことをよく覚えておられ、五十才代のオジサン・オバサンをつかまえて「○○チャン・△△チャン」には皆当惑顔。

庄巻は、中川先生の「ヒロチャンが、オンッコノ」といってフリチンで走り回って……とのスツバ抜きで、一同大爆笑。流石の国会図書館専門調査員柴田啓次氏も照れることしきりであった。

制限時間も過ぎ、皆で手をつないで当時の大谷幼稚園の歌「ワレラハホトケノコドモナリ……」と「おさななじみのおもいで……」を歌い、記念撮影の後、成田慶子さんの「先生方お元気でまたお逢いしましょう」のしめくくりの言葉でお開きとなった。

先生方は大変喜ばれ、再会を心待ちにして

おりますとの年賀状が寄せられていることを付記しておく。

出席された先生方

荻原（中川）敏子先生（東京）

三本木（開）すづ先生（函館）

大塚 すゑ先生（函館）

小松（齊藤）保子先生（東京）

十二年～二十二年

ナールデン市の桜

村上 晋

明けて御日出度うございます。

私、実は旧年六月に当会常任幹事の川守田孝平さんから会報への投稿の依頼を頂いて居りましたが、丁度ヨーロッパ出張旅行の為失礼して居りました処、今回又川守田さんから新年号発刊に当り何か投稿をとの御丁寧なお申入れがありました。生来悪筆の為、正直な話大変重荷に感じて居りましたが再度に及ぶお話しに感謝しますと共に何か書かなくてはという気持になりました。私は小学校四年生迄は北海道松前に生れ育ちました。祖父迄は松前藩士で小学校入学迄は、それ迄唯一軒だけになった武家屋敷でランブと小川の水の

生活をしていました。子供の頃の松前から函館迄の小さな定期船での長い旅など思い出はたくさんありますが、それらの道南出身の皆様も大体同じ感慨をお持ちのことでしょう。

私は三十年程の長い間、オランダ・ナールデン市所在の世界的香料会社日本支社の責任者として勤務していました関係上、毎年オランダ他ヨーロッパ諸国に出張していました。十年程前になるかと思いますが、当時の矢野函館市長から連絡を頂き、是非私の力を貸して欲しいとの事でした。それは矢野市長がヨーロッパに旅行された時、偶然ナールデン市の旧市街に案内されて大変感激され、ナールデン市と函館市と姉妹都市になりたいとのことでした。その訳はナールデン市は五稜の城塞の中にある七〇〇年を超える古い城塞都市でヨーロッパ城塞都市連盟の中心的存在です。その中央には街と共に、古い教会がそびえ立ち現在も現役として市民の心の拠り処となり、周囲は昔ながらの住宅、商店、レストラン、バー等々、多くの人々が古い石畳の道路を往き来しています。そのみならず、矢野市長は多分、榎本武揚が戦艦開陽丸をオランダ・ドルドレヒト市で建造中の二～三年のオランダ滞在中に、このナールデンにも訪れそれが函館の五稜郭と何らかの関係があるのではないかと思われたのではないのでしょうか？（開陽丸につきましては皆様ご承知の通り榎本武揚がその軍勢を率いて函館より松前藩を海上より砲撃し優位を保持したが、江差沖

で台風の為開陽丸は沈没し敗走しました。この様な矢野市長の熱意は日本の外国との交流は長崎だけではない、北国北海道にもあったのだという言葉になり、其の後オランダ客船の函館港寄港の時は、市長を先頭に市をあげての大歓迎だったと聞きました。矢野市長と私との連絡は当時の柴田公室長(後の市長)を通じて行われました。其の後も函館バライオンズクラブより松前の桜の苗木一〇〇本をナールデン市に寄贈したいとの申込が私にありました。この苗木はナールデン・ロータリークラブを通じ、ナールデン市に寄贈されました。私が旧年末オランダの友人に依頼して調べて貰った結果、苗木は最初ナールデン市の園芸学校で育てられて現在は(1)老人ホーム(2)公園(3)青年の家にそれぞれ分けられ、すくすくと成長し、この春の開花を皆大変期待して待っていることが分りました。

処で姉妹都市の件は如何なったかと皆様思われることでしょう。実は誠に残念乍ら実現しませんでした。ナールデン市(人口約四万人)はその歴史はアムステルダム市と共に、古く七〇〇年を超えるオランダでも三本の指に入る高名な街であり、函館とはうまくマッチしないと云うことでした。然し私がオランダの友人(苗木その他で協力してくれた)から聞いた話では、本当の理由はナールデン市の当時の財政事情が芳しくない為、姉妹都市関係を結ぶゆとりがない為とのことでした。矢野市長始め函館市の関係者は勿論のこと、

多少お手伝いをした者の一人として私も遺憾に堪えません。然し乍ら日本人の温い友情の手は成長し、毎年きれいに花を咲かす桜の木を通じて今後も生き続け、益々拡りを増していくことでしょう。

「高島華宵展」の盛況

三上 佑

新春の渋谷の街は、東急百貨店で開かれている「大正ロマンを描いた高島華宵展」が人気をよんで、往來する若い人たちが例年より賑わっているように思えた。華宵は大正から昭和にかけて「少年倶楽部」や「日本少年」に秀れた挿絵を描いて大変評判を集めたこと

を知る方は多いはず。実は、私は朝日新聞社主催のこのイベントを全面的にバックアップする「弥生美術館」の理事長・鹿野琢見氏と懇意なのである。といっても、ご交誼を頂くようになったのはこの一年位のこと、それも私が入っている福沢論吉協会での出会いがご縁の元というわけで、今更ながらこの世のえにしの浅からぬことが身にしてみるが、道南会の方にもぜひ「弥生美術館」の存在を知ってほしい願ひからこの小文をしたためた次第。弁護士で東京第二弁護士会会長をつとめる鹿野さんは、宮城県の農村で生まれたが、小学校三年生の時、ようやく買ってもらった「日本少年」の巻頭を飾る一枚の口絵に強くひかれた。それが、高島華宵画く「さらば故郷」という、春、学窓を巣立ってふるさとを後にする一人の美少年の姿を描いたものだった。

生誕100年

大正ロマンを描いた 高島華宵展

昭和63年1月3日(日)→20日(水)
(午前10時～午後7時・ご入場は閉店30分前まで)
 (7月5・14日は閉会・最終日は6時開演)
 (11時開演)

渋谷・東急百貨店本店7階特設会場
 主催・朝日新聞社 協力・弥生美術館

あゝ銀座行進曲の中で
 「国貞描くこの女もゆきは
 華宵好みの君もゆきは
 と歌われ一世を風靡した高島華宵
 竹久夢二らとともに少女たちのあこがれの
 的だった華宵の浪漫の世界を再現

「少女圖解」日本少年」などの雑誌の表紙
 紙絵・口絵・新聞小説の挿絵・華宵便箋
 エッセイ・双六・家庭会など約三〇〇余
 点と日本画の代表作を特別展覧

本店 東急

少年倶楽部





この口絵のもつ美しさ、清らかさに鮮烈な感動を覚えた鹿野さんは、長じて陸士―復員―東北大―弁護士の人生を歩んで落ち着いた頃、高島華宵が明石市の愛老園に寂しい画道一筋の生活をすごしていることを知った。そして、昭和四十年から鹿野さんと華宵との文通がはじまり、既に失っていた「さらば故郷ノ」の新しい作品も描いて頂くことになる。華宵は力強いファンの支持を得て元氣を取り戻し、鹿野さんの家に設けられた華宵の間に寝起きして彩管をふるうことになった。華宵はその喜びも束の間、昭和四十一年七月三十一日、この部屋で不帰の客となる。七十八歳であった。華宵会を作るなどして誠心誠意尽くした鹿野弁護士のお人柄を敬愛する華宵の身内、縁者などから、往時の作品が次々と寄贈されたり、また鹿野さんご自身の情熱から入手した数々の名作（華宵のほか竹久夢二の逸品も数多）が、相当の量に上ったため、これは広く一般に公開すべきものだとの確信をお持ちになり、遂に昭和五十九年五月開館という美挙を成就されることになった。

以上は『弥生美術館』図録を参考に若干沿革を述べてみたが、「向ヶ岡弥生町」の原名のある江戸時代以来の文京地区の一角にたつ瀧酒などのギャラリーは、また古墳時代の住居あとから発見されて名付けられた「弥生式土器」ゆかりの歴史的な場所にも位置している。皆さんのご散策にも格好のところなので、鹿野さんもご来館をお待ちしているとのこと。

なお、鑑賞ご希望の方は、私までお申し越し下されば「入館割引券」を差し上げたいので、（電七―一五―二八二二）までご連絡下さい。

函館ゆかりの人氣歌手・瀬川瑛子

能 味 寿 哉



62年の代表歌手となった瀬川瑛子

六十二年の歌謡界は、瀬川瑛子の「命くれない」が大ヒットし、彼女の歌手生活二十周年を飾るうれしい年となった。全日本有線放送大賞にも輝いた「命くれない」年間リクエスト（61・12―62・11）は二十五万四千五百回で、二位の吉幾三の「雪国」十七万二千二百回をはるかに引き放し根強い人気を保ったが、瀬川瑛子が往年の歌手、瀬川伸の娘さんであることは知っていても、瀬川伸がわが函商の先輩（旧37回卒）であることを知る人は少ないようだ。恐らく、昨年大晦日の紅白歌合戦に初出場した瀬川瑛子を最も感動的に見つめていたのは、自分もかつて紅白にデビューした思い出を持つ瀬川伸その人であったのではなからうか。NHKもなかなか味な人選をしたものだ、私なりの感懐はあったが、瀬川伸が、その紅白に出演したのは昭和二十七年一月三日で、まだラジオ放送の時代だから内幸町の第一スタジオが会場となっていた。持ち歌は一寸分らないが、男性組は、当時の人氣歌手である伊藤久男、岡本敦郎、津村謙、林伊左緒らに、霧島昇、灰田勝彦、藤山一郎といったそうそうたるメンバーの一員に選ばれていたから、実力の程は疑いない。そして二回目の登場は、三十一年十二月三十一日、東京宝塚劇場からの生中継になった。この時は、三橋美智也、笈田敏夫、旗照夫、若原一郎、近江俊郎、小坂一也、春日八郎という豪華な二十五人の中に加わって熱演している。

瀬川瑛子が生まれたのは、昭和二十三年七月六日というから、紅白が始まる昭和二十六年の三年前。瀬川伸が二回目の出場を果たした昭和三十一年の時には満七才になっていた



から、多分スピーカーの前に座って父の一生懸命歌う歌謡に聞き入り、自分もお父さんのようになりたいと、子供心に考えたりしたところだろう。

手元にある「函館プレクトラムオーケストラ・55年のあゆみ」(さる五十四年に指揮者の中山永吉氏から贈られたが、この方も函商先輩(旧36回卒)によれば、歌手瀬川伸一本名・施延雄がプレクトラムに新設された声楽部の門をたたいたのが昭和十二年、その頃の曲目では「軍事郵便」「声なき凱旋」などが歌われて時局を反映しているが、翌年になると出征兵士や留守家族慰安の演奏活動が忙しくなる。殊に函商の配属将校だった堀越圭介陸軍少佐が現役復帰して一部隊を編成するに当たっては、部隊歌の発表普及に努め、道南出身者の多い堀越部隊の士気を高めるのに貢献している。函館の歌手・施延雄が大きく飛躍してコロムビア専属歌手となり、瀬川伸のネームでお目見えするのが昭和十四年。また全国的に歌謡曲が流行して新人発掘のコンクールが回を追って各社競争の状況となってきた時分で、六月、巴座で開催のコンクールでは、瀬川伸のアトラクション「街の姫百合」「春の港は」が発表されて盛大な拍手をよんだ。

「55年のあゆみ」に現われる瀬川伸のネームは、残念ながら昭和十五年以降消えているので、その活躍のあとをしのぶべくもないが、プレクトラム自体は、紀元二千六百年を祝っ

た昭和十五年も市の奉祝音楽会や国立七飯療養所などの各所で演奏活動を行っており、翌年七月の定期演奏会はクラシックに重点をおき、十分な企画準備のもとに開かれたのが前評判を高め、東北、北海道随一を誇る日魯講堂の会場は、立派な一人掛椅子八百席を満員御礼にするにぎわいとなった。

瀬川伸の才能ははぐくんだ「プレクトラムオーケストラ」のことはこの位で割愛させて頂くが、その娘さんの瀬川英子が、暮れの日本レコード大賞は惜しくも逃がしたが、これも「今回はまれに見る激戦だった。近藤真彦、中森明菜、五木ひろし、瀬川英子が大賞レースになだれ込み、結局瀬川は音楽事務所に力がなくて脱落したんですね」という週刊誌もあれば、某大新聞の読者投書欄に「瀬川英子さんこそ本命だったと思っていましたら、何のことはない有力プロダクションの持ち回りだったんですね」という批判も目にとまった。

私は、瀬川自身がそれやこれやの雑音に耳かさずに、新しい年も「命くれぬい」で頑張る、またいい作詩・いい作曲にめぐり会えてこの先もヒットチャートの上位に名を連ねていくことを心から念願している。そしていつか道南会のステージですばらしい日本の演歌を披露してくれるよう皆さんとともにその日お待ち望んでいる。

(文中敬称略)

常盤小学校の資料蒐集 につきお願い

函館市立常盤小学校は大正十一年に創立され、昭和四十五年に廃校になりました。廃校と同時に、学籍簿など常盤関係の書類は現在の西小学校に幸小学校とともに引継がれました。私は昭和五年常盤小を卒業したものです。先日(昭和六十二年十一月)函館に参り、西小学校を訪れて教頭先生にお会いしましたところ、学校では昔の書類や器材を整理して、幸小や常盤小時代のものを一室に集め、資料室を設けて、同窓生の来訪に備えたいという計画を持っているということでした。幸小のものは比較的整理保存されていますが、常盤小のものはあまりないようです。

この機会に東京在住の常盤会の皆さんと一緒に、学校の応援団となり資料を提供する体制をつくりたいと存じます。身近に常盤小出身者がおりましたらお知らせ願えれば幸いです。又お手許に卒業アルバム、古い写真、印刷物などがありましたらお見せいただきたいと存じます。

(連絡先)

松戸市小根本一五九一三

室谷邦雄(道南会副会長)

電話 〇四七二一六二一七二五〇

残念、函館大洋倶楽部また準優勝

第十二回全国クラブ対抗野球大会

川守田 孝平

関東地方の残暑がきびしかった八月十八日、オーシャンファンの鳥本さんから、全日本クラブ対抗野球大会が今日から所沢の西武球場で開かれ、函館オーシャンクラブが昨年に続いて出場し、明日の二回戦から対戦するので応援に行きますとの知らせを頂いた。私は都合でその日は行けなかったが、翌朝の新聞で昨日のサニークラブとの試合に12：0で勝ち、今日の準決勝戦にすすみ全府中と対戦することを知ったので、是非応援したいと思いい汗をふきふき西武球場に駆けつけた。

真青に晴れ渡った空の下で、人工芝の緑が目にも痛い程しみるような球場では既に全府中との試合は終っており、吾がオーシャンクラブは1：0で全府中を下し決勝戦にすすみ、昨年の優勝チーム全足利クラブとの試合が始っていた。

初回にとられた二点を追ってオーシャンクラブの選手は、全足利クラブの左腕、吉沢投手をよく攻め、再三得点圏に走者をすすめたが、一発が出ずに道南会の大野さん、鳥本さんをはじめ応援席をヤキモキさせた。



六回、一死一、三塁から若生の左儀打飛で一点を返し、その差一点と追い試合を最高に盛り上げたものの遂に及ばず、2：1で全足利に破れた。昨年に続く準優勝、しかも一点差の惜敗だっただけに、応援席からは残念のため息がこぼれていた。

しかしながら準決勝、決勝と好ゲームを展開し、流石に永い伝統の重みを持つ名門クラブチームであるということをつくづくと感じさせられた。

第三回

懇親囲碁会を開催

十一月二十一日(土)午後一時すぎから、一ッ橋の如水会館14階の会場で、恒例の囲碁会を行った。あいにく三上佑世話人が体の故障で急の欠席となり、代わって能味が当番。回を重ねて参加の顔ぶれも大方決まったよう、ウロを戦わす合い間は、御大の従二さんを中心に和やかな談笑がはずんだ。

午後五時半近く Grill での会食となり、ビールでノドを潤したあと東京会館自慢のアラカルト(チキンピラフ、ビーフカレー、ハヤシライス)に舌鼓を打ち、お互いの健闘をたたえて、めでたく散会となった。従二さんの小倉ビルの取りこわしと新築工事の苦勞談、室谷さんの米国オレゴン州ポートランドの不動産下見の視察談(土地2〜300坪、家屋50坪



能味、工藤、三東、漆原、堤、従二、室谷の各氏



ついでに五百万円位とか)、
三東さんの二十五年前ポー
トランドに商社マンとして
駐在していた思い出なども
語られ楽しいまじりだった。

参加者

従二	建二	七段
工藤	吉郎	五段
室谷	勇	二段
堤	明司	二段
三東	惣一	初段
漆原	勉	一級
能味	寿哉	四級
	以上七名。	

奥秩父山行

高市道也

朴黄葉一葉かつ散る音冴えて
三峰の峰も紅葉もかすみおり
色葉はらい冷えた岩場のにぎり飯
三峰の社に詣で秋惜しむ
色葉散る路に足とられつつ山下る
採石の山鯖雲に溶け込んで
秩父湖の水面に映える櫛紅葉

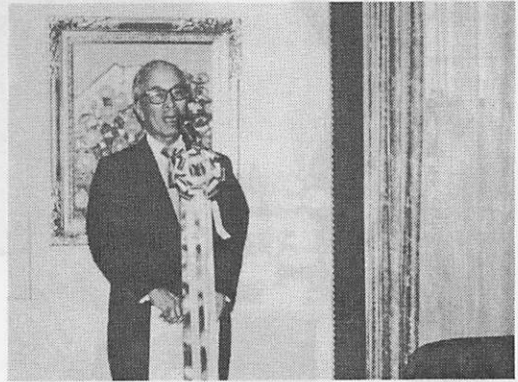
訃報

大石勝次殿 昭和62年11月逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

思い出の アルバム

62年7月17日

於 三越本店



挨拶をする山下会長



祝辞をのべる安井函館市助役



宍船青函博事務局次長



室谷副会長



乾杯の音頭をとる西原副会長



新入会員紹介
 小田桐さん
 輪島さん
 中斉さん
 由井さん



司会の鳥本さん



三島さん
 日野さん



独唱する伊藤欣子さん



相馬さん
 和田さん
 坂垣さん



上田さん
 染木さん
 金谷さん
 島田さん



吉田さん
山下会長



島田さん
板垣さん
宮本顧問
福田さん
山下会長
小山さん



倉石さん
松村さん
寺崎さん



白井さん
岩城さん
青山さん
山木さん



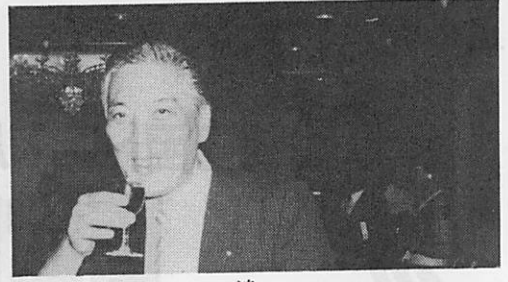
山木さん
佐々木さん
山田さん
松本さん



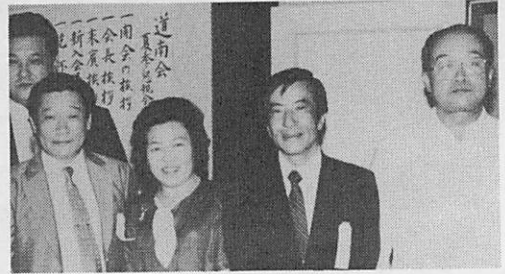
三瀬さん
武藤さん
能味さん
丹野さん
矢作さん



松本さん
輪島さん
梅田さん
山本副所長



遠山さん



佐浦さん
奈良さん
板垣さん
山木さん
中森さん



川守田さん
能味さん
橋本さん
三上さん
早瀬さん



渡辺さん
小山さん
川守田夫人

昭和63年1月25日
会報「道南」No. 19
発行所 〒107 東京都港区赤坂1-1-17
細川ビル805号
北海道道南会事務局
☎ 03-583-7947
印刷所 〒101 東京都千代田区美倉町10
株式会社 ソーラン社
☎ 03-256-7841



平野さん
大門さん
?
松村さん
寺崎さん

道南、はばたく。函館、かがやく。



青函トンネル開通記念博覧会 函館EXPO

無限の可能性…いま函館から

